

情報リテラシー教育

愛知県立大学長久手キャンパス図書館
の取り組み

愛知県立大学長久手キャンパス図書館
松森 隆一郎

東海地区大学図書館協議会「図書館職員基礎研修」
2015年12月7日

1

リテラシーとは:定義

- ▶ リテラシー(literacy)
 - ・「読み書き能力。また、与えられた材料から必要な情報を引き出し、活用する能力。応用力。」
(『デジタル大辞泉』)
 - ・「あるコミュニティ(一般には国・地域)において生活(機能)するために必要な読み書き能力、さらには計算なども含めた基礎学力をいいます。」
(日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践』,2010.)

2

情報リテラシーとは:定義

▶ 情報リテラシー

- ・「(情報リテラシーを有する人とは)情報が必要である状況を認識し、情報を効果的に探索・評価・活用する能力をもっている人のことである。」
(アメリカ図書館協会ALA会長情報リテラシー諮問委員会『最終報告』1989)
- ・「問題解決のために情報を主体的に活用する能力」
(野末俊比古「情報リテラシー教育と大学図書館」
『図書館雑誌』2008.11)

3

情報リテラシー“教育”とは

「情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。」

(平成20年12月24日中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて(答申)』
(http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingij/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/05/13/1212958_001.pdf) [引用日:2015-11-22])

- ▶ 学生が卒業までに身につけておくことが望まれる学士力として、すべての学問分野に求められる汎用的技能の一つとして情報リテラシーを掲げ、情報活用能力の育成・強化の必要性を提言。

4

初等中等教育との関係

▶ 学習指導要領に示される「生きる力」

現在の学習指導要領は、子どもたちの現状をふまえ、「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。

(現行学習指導要領・生きる力)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/
[引用日:2015-11-22]

5

生きる力

▶ バナナとりんごを比べよう。

最初は

見た目で比べる

食べたことがあれば

味で比べる

知識があれば

産地で比べる
成分で比べる

6

図書館循環論

『人は、生まれた時ブックスタートから本に関わり、公共図書館、学校図書館、大学図書館を経て、また公共図書館へと巡っていく』

「第6回日本図書館協会東海地区会員のつどい」
(2012年2月12日開催)での松林正巳氏の発言

7

大学図書館が担うべき役割

情報リテラシー教育 ⊃ 図書館リテラシー(利用)教育

大学全体で取り組む情報リテラシー教育のなかで
図書館がいかなる部分を

担うか、
担うべきか、
担うことができるのか

「図書館」だからこそできること
＝「図書館」の存在意義

8

新しい利用教育のかたち

旧「利用教育」vs新「利用教育」

「逐次的」vs「計画的」

「個別的」vs「体系的」

「単発的」vs「組織的」

新しい「サービス」の確立

「情報リテラシー教育の枠組みのなかで実施される利用教育(広い意味、新しい意味での利用教育)を「指導サービス(instruction service)」と呼ぶことにしたい。」(野末俊比古「情報リテラシー教育と大学図書館」『図書館雑誌』2008.11)

目指すべき図書館像
の提示

9

「図書館」における 情報リテラシー“教育”とは

- ▶ 従来の利用者教育(図書館の内部的文脈に基づくもの)
→ 図書館資料をより上手に活用してもらう
- ▶ 情報リテラシー教育(図書館外部からの要請に基づくもの)
→ 「図書館(資料)」にだけでなく、広く「情報」に関わる能力であり、また、情報の「探索・収集」だけでなく、「整理・分析」や「表現・発信」をめぐる知識・技能などが含まれる。(野末俊比古「情報リテラシー教育と大学図書館」)

→ 情報の「探索と収集」、「整理と分析」、「加工と発信」+「モラルとマナー」
「インターネットの普及した「情報社会」において求められる社会的規範を「情報倫理」や「情報モラル」と呼びます。いわば情報を使うときの「ルール」と「マナー」です。…特に、インターネットを利用する場合には、著作権、プライバシー、セキュリティなどに関するルールとマナーをしっかりと理解し、実践することが大切です。」
(紀伊國屋書店DVD『情報の達人 第2巻 ゼミ発表をしよう!』テキスト)

10

利用教育を構築するために 実施すべき項目と手順

(『図書館利用教育ガイドライン-大学図書館版-』日本図書館協会1998)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1.理念の確認 | 6.財政の確立 |
| 2.組織の確立 | 7.担当者の採用と研修 |
| 3.現状分析 | 8.施設・設備、教材、広報手段の提供 |
| 4.目的・目標の設定 | 9.協力体制の確立 |
| 5.方法・手段の設定 | 10.評価の定着化 |

11

「利用教育(指導サービス)」の目的と内容

(野末俊比古「情報リテラシーと教育における図書館員の役割
-NII研修プログラムの背景にあるもの-)

- 1.(to)whom
→ 教育の「対象」:セグメントの細分化。教育履歴の把握
- 2.Why
→ 目的=いかなる「卒業生像」がめざされているか。
- 3.What
→ 「目標・内容」⊃「習得」+「認識」・「理解」
- 4.How
→ 「方法」の選択⊃「講習」・「ツアー」+「テキスト」「マニュアル」・「パスファインダ」
- 5.who,when,where
→ 「カリキュラム」をどう設計するか。

12

「利用教育」の目的・目標の設定①

(『図書館利用教育ガイドライン-大学図書館版-』日本図書館協会1998)

領域1:印象づけ: 図書館があることを認識させる

- ・大学における図書館の位置づけ
- ・図書館の社会的意義
- ・情報リテラシーと図書館

領域2: サービス案内: 図書館を利用する方法を学ぶ

- ・図書館の方針・目的・特色
- ・図書館の施設・設備
- ・図書館のサービス
- ・利用規定・マナー

13

「利用教育」の目的・目標の設定②

(『図書館利用教育ガイドライン-大学図書館版-』日本図書館協会1998)

領域3: 情報探索法指導: 情報の特性と探索方法を学ぶ

- ・情報探索法の意義と情報評価
- ・資料とその利用
- ・情報の検索
- ・資料の探索・入手

領域4: 情報整理法指導: メディア特性への対応

- ・メディアを利用した情報の記録と整理
- ・分類・索引の利用
- ・情報の抽出・加工
- ・分野別の整理法と情報整理法の意義

領域5: 情報表現法指導: メディアの特性及び情報倫理・発信法

- ・資料別、メディア別の表現法
- ・プレゼンテーションとコンピュータネットワークによる発信
- ・分野別の表現法と情報表現法の意義

14

批判的リテラシー

▶ 批判的リテラシー: すべての情報にはバイアスがかかっている

(日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践』)

▶ 「現在は根拠不明確な情報を個人が大量にインターネット上に発信しており、それらは有料情報よりも容易に手に入る上に、一見まことやかに書かれている。適正な学術情報リテラシー教育を受ける機会を持たない若者は、扇動的な情報に踊らされやすい上に、誤った情報を再発信(SNSのシェアなど)することに関して無頓着になる可能性が高い。」

(梅澤貴典「マルチリテラシー時代における大学図書館の職員の役割」(『現代の図書館』51(1)2013)

→ 利用教育に「情報の評価」を取り入れる

評価のポイント

- ① だれが書いているか?
- ② どこから出版・公開されているか?
- ③ 客観的に書かれているか?
- ④ いつ作られたものか?
- ⑤ どんな情報をもとに書かれているか?

(紀伊國屋書店DVD『情報の達人 第2巻 ゼミ発表をしよう!』テキスト)

15

「情報リテラシー教育」段階別目標設定

(梅澤貴典「マルチリテラシー時代における大学図書館の職員の役割」(『現代の図書館』51(1)2013)

1. 入学時(最初のレポート時~夏休みまで)

- ・大学の蔵書検索システムを使って資料を探せる。
- ・用途に応じて参考資料を使い分けられる。
- ・専門事典・新聞DBを使って、時事問題についての情報を多角的に集められる。

2. 2~3年次

- ・与えられたテーマについて複数の立場から書かれた情報を集め、比較・分析した上で考察できる。
- ・出典の確かな情報を識別して活用でき、適正に引用表記できる。

3. 卒業論文執筆前

- ・研究するテーマについて、論文DB等を使って網羅的に関連情報を集められる。
- ・仮説に反する情報についても、客観的に収集・分析できる。
- ・論理的で整合性のある文章を書ける。

4. 大学院入学時

- ・海外雑誌や新聞の学術情報についても、網羅的かつ選択的に収集・評価できる。
- ・先行研究について、サーベイ論文が書ける。

16

図書館員に求められるもの

(野末俊比古「情報リテラシーと教育における図書館員の役割
—NII研修プログラムの背景にあるもの—)

1. 教育(教育実践)に対する理解＝「(実学としての)教育学」の知識
→ 指導プログラムのマネジメントに必要なもの
・ 講習会などの企画・評価など
→ 指導にあたってのスキルとして必要なもの
・ 教材作成やプレゼンテーションの手順・手法など
2. 学問領域における学習の進め方の把握
→ 学習を進めるときの手順・方法
3. 情報リテラシーを活用できる環境づくり
→ 実際に活用するときに直接支援するところまでを含む

17

「情報リテラシー教育」を進める上での課題

1. 教員との連携・協力
・ カリキュラム構築への参加
・ 授業への参加
・ 連携対象の選定
2. 職員の不足
・ 学生によるサポート
・ 学内外の予算獲得
・ 既存ツールの獲得
・ マニュアルの整備と更新
3. 職員の育成
・ NII「学術情報リテラシー教育担当者研修(3日間)」
4. マーケティング(広報・ニーズ調査)

18

愛知県立大学

長久手キャンパス図書館の取り組み
—事例報告—



19

愛知県立大学について

▶ 学生 5学部 + 大学院

長久手キャンパス

日本文化学部

外国語学部

情報科学部

教育福祉学部

看護学部

▶ 学生数 合計約3500人

守山キャンパス

20

愛知県立大学図書館について (長久手キャンパス図書館)

- ▶ 蔵書 約565,000冊
- ▶ 開館日 222日
土日祝日を除く平日9:00から21:20(一部例外あり)
- ▶ 利用状況(1日平均)
 - 入館者数 838名
 - 貸出者数 128名
 - 貸出冊数 337冊
- ▶ 職員数 14名(内訳:常勤4名・契約職員10名)

(平成26年度実績) 21

利用者への取り組み

▶▶ 県大図書館での情報リテラシー教育

22

県大図書館での情報リテラシー教育

- ▶ レファレンスサービスでの指導
- ▶ オリジナルテキスト等の配布
- ▶ ホームページでの情報提供や掲示等による啓発
- ▶ 各種利用者講座の実施



23

各種講座の種類

- ① 図書館オリエンテーション
- ② 情報探索講座
 - ②-1 【初級】レポートの書き方講座
 - ②-2 【上級】データベースの活用講座
- ③ 各種データベース講座

24

①図書館オリエンテーション



- ②-1 【初級】レポートの書き方講座
- ②-2 【上級】データベースの活用講座
- ③ 各種データベース講座

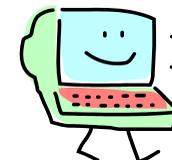
25

講座の構成



館内ツアー
30分

+



検索方法の説明
練習問題
30分

26

概要

- ▶ 図書館のいろはがわかる講座
- ▶ 図書館にある資料は自分で探せるようになる。
- ▶ 館内のサービスについて知ることができる。



ねらい

- ▶ 基本的な利用の仕方を教え、学生の図書館の主体的な利用を促す。
- ▶ わからないことはカウンターで尋ねていいということを知ってもらう。

27

内容(60分)

- ▶ 館内ツアー：
 - 図書館内の設備やその利用方法、館内にある資料の種類や説明を行う。
- ▶ 検索方法の説明：
 - OPACの利用方法を中心に説明。
 - 検索結果の見方や探した資料の利用の仕方などの基本的な資料の使い方を学ぶ。
 - 予約のかけ方や本学にない資料の探し方も。

28

受講方法

- ▶ 自由参加:
 - 4月から5月にかけて図書館が日時を設定する10回
 - 1回の定員は20名
- ▶ クラス単位:
 - 教員が申し込みを行う授業のコマを使って実施する
 - 「基礎演習」等の1年生の必修科目の担当教員が申し込みをすることが多い

29

実施方法

- ▶ 図書館職員(司書)全員が行う。
- ▶ 年間職員ひとり5回程度担当する。
- ▶ 申し込みに応じて各回の担当を振り分け、担当した職員が60分間説明を行う。



負担の軽減
職員の利用者教育への共通理解
マニュアルの整備

30

情報探索講座・初級

②-1 レポートの書き方講座

- ▶▶ ① 図書館オリエンテーション
- ②-2 【上級】データベースの活用講座
- ③ 各種データベース講座

31

概要

- ▶ レポートを書くための基本的な流れと、そのための図書館の使い方を学ぶ講座。
- ▶ レベル・内容は1、2年生向け

CiNii
(Books, Articles)

ILLサービス

基本的データベース
・Japanknowledge
・EBSCOhost
など

32

講座の構成(60分)



DVD上映10分

レポート作成の
手順・流れをチェック

+



&



講義&実習50分

レポート作成に必要な
図書館利用法の説明と演習

33

情報探索講座・上級

②-2データベースの活用講座

- » ① 図書館オリエンテーション
②-1 【初級】レポートの書き方講座
③ 各種データベース講座

34

概要

- ▶ レベル・内容は卒論に向けて3年生以上向け。
- ▶ 各学部、学科に特化したデータベースについてさらに詳しく学ぶ講座。



35

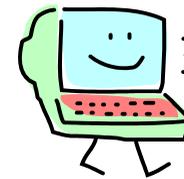
内容(60分)



講義40分

基本のデータベースの確認
から各学科に特化した専門
的データベースまでの説明

+



実習20分

実際にデータベースを
使って演習問題を解く

内容のカスタマイズも可能

36

受講者

- ▶ 初級・レポートの書き方講座
 - 1,2年生向け
(限定しているわけではない)
- ▶ 上級・データベースの活用講座
 - 3年生以上
(限定しているわけではない)
- ▶ 受講方法
 - 自由参加
 - クラス単位・ゼミ単位



37

受講者の推移(3年間)

	24年度	25年度	26年度
参加人数	544	880	696
開催回数	45	61	46
1回あたり参加人数	12.0	14.4	15.1

38

アンケート結果

- ▶ 満足度
 - 「よい」が多く、受講してみたら役立ったという声が多く聞かれる。
- ▶ 意見
 - 配布資料はデータベースの使い方を詳しく書いて欲しい。
↔ 配布資料が多い
 - 実習の時間が足りない。
↔ 時間が長い
 - 実習は最後にまとめてだと忘れてしまう。
↔ その都度やっていると時間がかかる

39



40

ポイントと課題

- ▶ ①少人数制
- ▶ ②実習
- ▶ ③教員との連携
- ▶ ④広報
- ▶ ⑤プログラムとの連携



41

その①少人数制

- ▶ 図書館オリエンテーション : 1グループ10人以内
- ▶ 情報探索講座 : 実習時には10人に1人程度の職員



- ・きめ細かくケアをし、理解と習得を促す
- ・質問のしやすい雰囲気・環境づくりができる

- ▶ 課題
 - * 人的労力・時間が必要
 - * 担当する職員の育成

42

その②実習

- ▶ 習った内容に沿った演習問題
- ▶ わからない箇所は職員が個別に説明
- ▶ 見て説明を聞くだけでなく、実際に使ってみることでより理解ができる。

-
- ▶ 課題
 - * 人的労力が必要
 - * 受講者全員に端末が必要

43

その③教員との連携

- ▶ 授業での受講の依頼
- ▶ 受講票配布による出欠確認
- ▶ 教員からの受講推奨の依頼
- ▶ カスタマイズによる教員の要望の反映

-
- ▶ 教員からの意見
 - 図書館について最初に詳しく説明してもらおうと、学生が利用しやすくなる。
 - 自分もあまり詳しくない専門的データベースについて指導してもらえてよかった。

44

その④広報

- ▶ 入学時ガイダンス
- ▶ 学内ポータルサイトでの周知
- ▶ 図書館ホームページでの宣伝
- ▶ ポスターの作成・掲示
- ▶ 教員からの紹介
- ▶ テキストの配布

課題

- * 申し込み学生の学部・学科が偏りがち
- * 全体への周知の難しさ

45

その⑤プログラムとの連携

- ▶ 本学が採択された「グローバル人材育成事業」との連携を行っている。
- ▶ グローバル人材育成プログラムを修了するための必修講座としたため、受講者が飛躍的に増加した。



- ▶ 授業やプログラムでの受講の必修化など、他部門との連携強化により受講者の増加が見込める。
※ただし、関係部署との連絡・調整等が必須

46

まとめ①

本学図書館における
情報リテラシー教育とは



利用者が必要な情報に
効率的に正しい方法で
アクセスするためのツールの伝授

47

まとめ②

- ▶ 完成はなく、常に見直しを行える体制を作ることが重要。
- ▶ 情報源の更新や変更は常にチェックの必要あり。

- ▶ 大学の規模や学部構成、図書館の方向性など、各大学に応じて情報リテラシー教育のあり方はそれぞれ。
- ▶ それぞれの大学に合った、利用者にとって価値ある情報提供を。



アプローチは違っても最終的な卒業生像は同じ

48

図書館員のリテラシー

- ▶「子供のころ父はこう教えてくれた。エンサイクロペディア・ブリタニカの内容を暗記する必要はない。そこに書かれている内容を見つけたす方法を身につければいいんだ。(p.58)」

『情報選択の時代：溢れる情報から価値ある情報へ』
(リチャード・ワーマン著；松岡正剛訳 日本実業出版社, 1990.8)

49

図書館員のリテラシー

『たくさんの「知識」を身に付けることは、もちろん大切ですが、「知識を有効に身につけるための知識」を獲得することは、さらに重要と考えます』

青山学院大学教育人間科学部

小田光宏教授（情報サービス論）

（別府大学司書講習講義講師のご紹介HPIに載っていた言葉）

50

参考文献

- ▶ 論文
 - ・野末俊比古「情報リテラシー教育と大学図書館-「利用教育」から「指導サービス」へ-」(『図書館雑誌』(特集★大学図書館と利用教育) 2008.11)
 - ・野末俊比古「情報リテラシー教育における図書館員の役割-NII研修プログラムの背景にあるもの」(『短期大学図書館研究』第28号 2008)
 - ・三浦逸雄ほか「大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能:日米実態調査の結果と分析」(東京大学大学院教育学研究部 2005)
 - ・慈道佐代子「情報リテラシーと利用教育-大学図書館と公共図書館-」(『図書館界』61(5) 2010)
 - ・梅澤貴典「マルチリテラシー時代における大学図書館の職員の役割」(『現代の図書館』51(1) 2013)
 - ・大城善盛「アメリカの大学図書館界における情報リテラシーの研究-理論と実践の歴史的分析を通して-」(『花園大学文学部研究紀要』42 2010)
- ▶ 図書
 - ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ガイドライン 大学図書館版』日本図書館協会 1998
 - ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『図書館利用教育ハンドブック 大学図書館版』日本図書館協会 2003
 - ・日本図書館協会図書館利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践』日本図書館協会 2010
 - ・藤田節子著『図書館活用術-情報リテラシーを身につけるために-新訂第3版』日外アソシエーツ 2011
 - ・リチャード・ワーマン著；松岡正剛訳『情報選択の時代：溢れる情報から価値ある情報へ』日本実業出版社 1990

51